

平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年2月5日

上場会社名 株式会社 三越伊勢丹ホールディングス
 コード番号 3099 URL <http://www.imhds.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼最高経営責任者 (氏名) 武藤 信一
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部総務部コーポレートコミュニケーショングループ長 (氏名) 川野辺 浩司
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月13日

上場取引所 東

TEL 03-5843-5115

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
21年3月期第3四半期	1,101,692	—	20,005	—	31,062	—	15,752	—
20年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	—	40.62	—	40.61
20年3月期第3四半期	—	—	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	％	円 銭	円 銭	
21年3月期第3四半期	1,424,580	510,522	—	—	34.7	—	1,276.20	
20年3月期	—	—	—	—	—	—	—	

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 494,901百万円 20年3月期 一百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	14.00	14.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(％表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	1,420,000	—	15,000	—	30,000	—	11,000	—	28.37

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの
① 会計基準等の改正に伴う変更 無
② ①以外の変更 無
(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	21年3月期第3四半期	387,859,022株	20年3月期	一株
② 期末自己株式数	21年3月期第3四半期	65,149株	20年3月期	一株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	21年3月期第3四半期	387,798,759株	20年3月期第3四半期	一株

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成20年11月13日に公表いたしました連結業績予想を修正しております。

なお、1株当たりの予想当期純利益の算定に当たっては、平成20年12月31日現在の発行済株式数を使用しております。

平成20年12月31日現在 発行済株式数:387,793,873株

2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。実際の業績等に影響を及ぼす可能性のある重要な要因には、当社グループを取り巻く需要動向、為替レートの変動、公的規制、自然災害・事故等がありますが、これらに限られるものではありません。

3. 「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

4. 当社は平成20年4月1日に株式会社三越と株式会社伊勢丹が経営統合し、株式移転により共同持株会社として設立されました。当連結会計年度が第1期となるため、前期実績及び前年同四半期実績はありません。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間(平成20年4月1日～平成20年12月31日)におけるわが国経済を取り巻く環境は、企業収益の落ち込みや、雇用情勢の悪化など、明るい材料は見られず、大幅に後退しております。

百貨店業界におきましては、同業・他業態との競争激化に加え、消費マインドの冷え込みから、全国百貨店売上高の前年割れが10ヶ月間続いております。特に第3四半期の3ヶ月間については、急激な景気後退の影響を受け、前年に対し6%以上連続して割り込みました。

このような状況の下、当社グループは「常に上質であらしいライフスタイルを創造し、お客さまの生活の中のさまざまなシーンでお役に立つことを通じて、お客さま一人ひとりにとっての生涯にわたるマイデパートメントストアとなり、高収益で成長し続ける世界随一の小売サービス業グループ」の実現に向けた取組みを行ってまいりました。

以上の取組みにより、第3四半期連結累計期間の売上高は1,101,692百万円、営業利益は20,005百万円、経常利益は31,062百万円、四半期純利益は15,752百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

①百貨店業

中核の百貨店業におきましては、平成20年4月の統合記念祭、6月の東京メトロ副都心線開通、9月の伊勢丹新宿本店婦人リモデル、11月の三越仙台店増床により、新しい顧客の開拓に踏み出しておりますが、厳しい経済状況の下、全体の底上げまでには至らず、各店舗で前年より減収となりました。

なお、店舗事業の選択と集中の一環として、三越の池袋店、鹿児島店、武蔵村山店(東京都武蔵村山市)、名取店(宮城県名取市)および小型店舗(鎌倉、盛岡)各店の営業終了および池袋店の固定資産譲渡を平成20年9月に決定しております。

海外百貨店に関しましては、瀋陽伊勢丹(中国)の開店などにより増収を達成いたしました。但し、新店開店費用及び家賃改定等に伴う経費負担増により、当第3四半期連結累計期間では減益となりました。

売上高は1,023,978百万円、営業利益は18,660百万円となりました。

②クレジット・金融業

クレジット・金融業におきまして、(株)伊勢丹アイカードが、平成20年11月に発行いたしました「VISA付新アイカード」の取扱高が増加したものの、カードシステム投資等の費用が発生したため、増収減益となっております。

売上高は11,592百万円、営業利益は1,320百万円となりました。

③小売・専門店業

小売・専門店業におきましては、(株)クイーンズ伊勢丹が平成20年3月に砧店(東京都世田谷区)、4月に東陽町店(東京都江東区)、11月に大宮店(埼玉県さいたま市)をオープンし増収となりましたが、新規開店に伴う経費負担増により減益となりました。なお、希望ヶ丘店(東京都世田谷区)は平成20年9月30日をもって閉店しております。

売上高は48,680百万円、営業損失は174百万円となりました。

④その他事業

その他事業におきましては、不動産管理業を行う(株)三越不動産など25社で構成されております。売上高は116,789百万円、営業利益は1,295百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は1,424,580百万円となりました。うち流動資産は313,469百万円、固定資産は1,111,111百万円であります。

流動資産の主な内容といたしましては、現金及び預金48,914百万円、受取手形及び売掛金130,551百万円、商品74,673百万円であります。

固定資産の主な内容といたしましては、有形固定資産792,434百万円、無形固定資産74,360百万円、投資その他の資産244,315百万円であります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は914,057百万円となりました。うち流動負債は568,253百万円、固定負債は345,804百万円であります。

流動負債の主な内容といたしましては、支払手形及び買掛金143,088百万円、短期借入金204,526百万円であります。

固定負債の主な内容といたしましては、長期借入金18,100百万円、繰延税金負債194,987百万円、退職給付引当金64,400百万円、負ののれん56,246百万円であります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は510,522百万円となりました。

(自己資本比率)

当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は34.7%となりました。

(1株当たり純資産額)

当第3四半期連結会計期間末における1株当たり純資産額は1,276円20銭となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、43,069百万円となりました。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、28,010百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益20,304百万円の計上、仕入債務の増加25,242百万円の収入があったこと、一方、主な支出として売上債権の増加12,237百万円、法人税等の支払額7,521百万円があったこと等によるものです。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、25,909百万円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出23,660百万円、無形固定資産の取得による支出4,094百万円があったこと等によるものです。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、1,837百万円の収入となりました。これは主に、長期借入金を27,003百万円返済、社債を10,000百万円償還する一方、短期借入金の増加45,037百万円があったこと等によるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

第3四半期に顕著になった金融危機などにより景況感是一段と厳しさを増し、個人消費も低迷しており、営業状況は当面厳しさが続くものと予想しております。

このような状況の下、売上高が前回の予想を下回り、それに伴い営業利益、経常利益、当期純利益も予想を下回る見通しとなりましたので、平成21年3月期の通期連結業績予想を修正しております。

なお、当期純利益の今回予想値には、時価のある有価証券のうち、時価が著しく下落しているものについて、当第3四半期末に減損処理により特別損失として計上した投資有価証券評価損の金額を織り込んでおります。

詳細は、平成21年2月5日に別途開示いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

1. 棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、第2四半期連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

2. 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

3. 税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

当社は平成20年4月1日に株式会社三越と株式会社伊勢丹が経営統合し、株式移転により共同持株会社として設立されました。当連結会計年度が第1期となるため、該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間末
 (平成20年12月31日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	48,914
受取手形及び売掛金	130,551
有価証券	673
商品	74,673
製品	1,061
原材料	516
仕掛品	164
その他	59,672
貸倒引当金	△2,757
流動資産合計	313,469
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物（純額）	199,916
土地	567,257
その他（純額）	25,261
有形固定資産合計	792,434
無形固定資産	
のれん	296
その他	74,064
無形固定資産合計	74,360
投資その他の資産	
投資有価証券	104,145
その他	142,215
貸倒引当金	△2,045
投資その他の資産合計	244,315
固定資産合計	1,111,111
資産合計	1,424,580

(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間末
(平成20年12月31日)

負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	143,088
短期借入金	204,526
未払法人税等	2,753
引当金	16,514
その他	201,370
流動負債合計	568,253
固定負債	
長期借入金	18,100
繰延税金負債	194,987
退職給付引当金	64,400
引当金	472
負ののれん	56,246
その他	11,598
固定負債合計	345,804
負債合計	914,057
純資産の部	
株主資本	
資本金	50,006
資本剰余金	319,119
利益剰余金	129,546
自己株式	△70
株主資本合計	498,601
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	△617
繰延ヘッジ損益	△94
為替換算調整勘定	△2,987
評価・換算差額等合計	△3,700
新株予約権	745
少数株主持分	14,876
純資産合計	510,522
負債純資産合計	1,424,580

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
売上高	1,101,692
売上原価	794,477
売上総利益	307,214
販売費及び一般管理費	287,208
営業利益	20,005
営業外収益	
受取利息	667
受取配当金	856
負ののれん償却額	9,926
持分法による投資利益	3,924
その他	3,145
営業外収益合計	18,519
営業外費用	
支払利息	2,367
固定資産除却損	1,531
その他	3,564
営業外費用合計	7,462
経常利益	31,062
特別利益	
固定資産売却益	1,056
投資有価証券売却益	260
特別利益合計	1,317
特別損失	
たな卸資産評価損	1,494
固定資産処分損	373
投資有価証券評価損	6,381
関係会社整理損	1,462
構造改革損失	2,362
特別損失合計	12,074
税金等調整前四半期純利益	20,304
法人税、住民税及び事業税	3,552
法人税等合計	3,552
少数株主利益	999
四半期純利益	15,752

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)
売上高	396,255
売上原価	286,699
売上総利益	109,556
販売費及び一般管理費	100,772
営業利益	8,784
営業外収益	
受取利息	209
受取配当金	154
負ののれん償却額	3,308
持分法による投資利益	627
その他	779
営業外収益合計	5,080
営業外費用	
支払利息	798
固定資産除却損	287
その他	952
営業外費用合計	2,038
経常利益	11,826
特別利益	
固定資産売却益	1,056
投資有価証券売却益	205
特別利益合計	1,262
特別損失	
固定資産処分損	1
投資有価証券評価損	5,347
関係会社整理損	△39
構造改革損失	1,850
特別損失合計	7,158
税金等調整前四半期純利益	5,929
法人税、住民税及び事業税	1,873
法人税等合計	1,873
少数株主利益	501
四半期純利益	3,554

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間
(自平成20年4月1日
至平成20年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	20,304
減価償却費	18,709
負ののれん償却額	△9,926
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△709
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△290
受取利息及び受取配当金	△1,523
支払利息	2,367
持分法による投資損益 (△は益)	△3,924
投資有価証券売却損益 (△は益)	△260
固定資産処分損益 (△は益)	373
投資有価証券評価損益 (△は益)	6,381
関係会社整理損	1,462
構造改革損失	2,362
売上債権の増減額 (△は増加)	△12,237
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△5,130
仕入債務の増減額 (△は減少)	25,242
未払費用の増減額 (△は減少)	17
その他	△9,153
小計	34,065
利息及び配当金の受取額	3,457
利息の支払額	△1,990
法人税等の支払額	△7,521
営業活動によるキャッシュ・フロー	28,010
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△6,139
有形固定資産の取得による支出	△23,660
有形固定資産の売却による収入	5,838
無形固定資産の取得による支出	△4,094
投資有価証券の取得による支出	△6,070
敷金及び保証金の回収による収入	8,254
その他	△37
投資活動によるキャッシュ・フロー	△25,909
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	45,037
長期借入金の返済による支出	△27,003
社債の償還による支出	△10,000
コマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少)	△4,000
配当金の支払額	△2,003
その他	△193
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,837
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,321
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,616
現金及び現金同等物の期首残高	27,208
株式移転による現金及び現金同等物の増加額	13,244
現金及び現金同等物の四半期末残高	43,069

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結会計期間（自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日）

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

	百貨店業 (百万円)	クレジット・金融業 (百万円)	小売・専門 店業 (百万円)	その他事 業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する 売上高	1,023,445	7,407	41,003	29,835	1,101,692	—	1,101,692
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	532	4,184	7,677	86,953	99,348	(99,348)	—
計	1,023,978	11,592	48,680	116,789	1,201,040	(99,348)	1,101,692
営業利益又は営業損失 (△)	18,660	1,320	△174	1,295	21,100	(1,095)	20,005

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業区分の主要な内容

- (1) 百貨店業……………衣料品、身廻品、雑貨、家庭用品、食料品等の販売
- (2) クレジット・金融業……………クレジットカード、貸金、損害保険代理、生命保険募集代理
- (3) 小売・専門店業……………婦人服、食料品、衣料雑貨、家庭用品等の販売
- (4) その他事業……………不動産管理業、製造・輸出入等・卸売業、物流業、総合人材サービス業、
情報処理サービス業等

【所在地別セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

全セグメントの売上高の合計額に占める「本邦」の割合が、90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

当第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

海外売上高が、連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は平成20年4月1日に株式会社三越と株式会社伊勢丹が経営統合し両社を完全子会社とする共同持株会社として設立されました。この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金は50,006百万円、資本剰余金は319,119百万円、利益剰余金は129,546百万円となっております。なお、発行済株式数は387,859千株となっております。

(重要な後発事象)

当第3四半期連結会計期間(自平成20年10月1日至平成20年12月31日)

当社は、平成21年1月27日開催の取締役会において、当社グループ内の組織再編の一環として、平成21年4月1日を期して、当社の100%子会社である株式会社三越(以下「三越」)及び株式会社伊勢丹(以下「伊勢丹」)から、それぞれのカード・保険子会社、友の会子会社、物流子会社及び人材サービス子会社に係る経営管理及び営業支援業務(以下「本件事業」)を、当社に承継させる会社分割(以下「本会社分割」)を行うことを決定いたしました。

また、三越及び伊勢丹の物流子会社及び人材サービス子会社は、本会社分割による直接子会社化と同時にそれぞれ合併することを決定しております。

I. 組織再編の目的について

平成20年11月13日付「三越伊勢丹グループ3ヶ年計画(2009-2011年度)について」に記載のとおり、当社グループでは、事業・機能の選択と集中により、経営資源をグループ全体で再配分・最大限活用することで、お客さま満足の向上、生産性の向上を図るべく、2011年度には右図のようなグループ体制を構築することを目指しております。

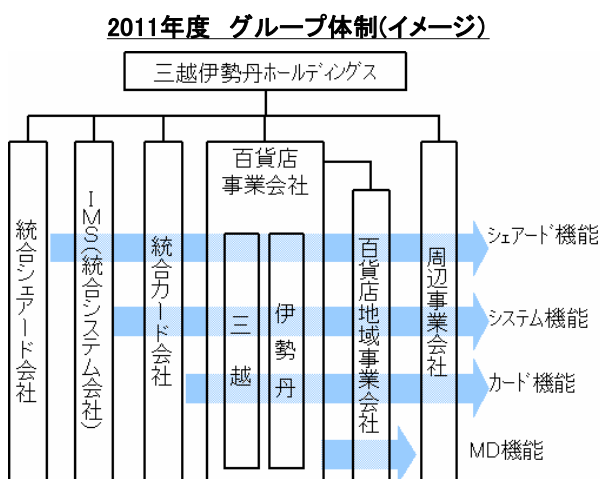
その一環として、システム事業につきましては、三越及び伊勢丹のシステム子会社を統合し、株式会社三越伊勢丹システム・ソリューションズとした上で、平成20年10月1日に当社の直接子会社としております。

今般、システム事業に続き、カード・保険、友の会、物流、人材サービスの各事業につきましても、各事業に係る子会社の経営管理及び営業支援業務を当社が承継し、当該各子会社を当社の直接子会社とすることといたしました。

この体制の下、カード・保険子会社(株式会社伊勢丹アイカード及び株式会社三越保険サービス)につきましては、2010年春を予定しておりますカード事業に関するインフラ一元化に向けた対応を進めるとともに、お客さまへの提供価値の拡充を図り、お客さま一人ひとりにとっての「マイファーストカード」を目指し、グループ第二の収益の柱へと育成してまいります。

友の会子会社(株式会社三越友の会及び株式会社イセタンクローバーサークル)につきましては、友の会事業の一元化の検討などを通じてお客様の利便性の向上及び業務の効率化を図ってまいります。

また、物流子会社(株式会社エム・ロジスティクス・ソリューションズ及び株式会社伊勢丹ビジネスサポート)、及び人材サービス子会社(株式会社プロネット及び株式会社伊勢丹キャリアデザイン)につきましては、直接子会社化と同時にそれぞれ合併を行い、機能の整理・集約を進めることで、統合シェアード会社として業務品質向上を図りながらコスト削減を図ってまいります。



II. 会社分割について

1. 会社分割の要旨

(1) 吸収分割の効力発生日 平成21年4月1日（水）（予定）

(2) 分割方式

三越及び伊勢丹を分割会社とし、当社を承継会社とする吸収分割です。

(3) 承継により増加する資本金等

該当事項はありません。

(4) 分割会社の新株予約権及び新株予約権付社債に関する取扱い

三越及び伊勢丹は、新株予約権及び新株予約権付社債を発行しておりません。

(5) 承継会社が承継する権利義務

当社は、吸収分割契約の定めにしたがって、効力発生日において三越が本件事業に関して有する関係会社株式及び伊勢丹が本件事業に関して有する関係会社株式を承継します。

2. 承継する事業部門の概要

(1) 承継する部門の事業内容

三越及び伊勢丹のカード・保険子会社、友の会子会社、物流子会社及び人材サービス子会社に係る経営管理及び営業支援業務

(2) 承継する資産、負債の項目及び金額

(平成21年4月1日見込み)

資産（三越から当社が承継するもの）	
項目	帳簿価額
関係会社株式	275百万円
合計	275百万円

資産（伊勢丹から当社が承継するもの）	
項目	帳簿価額
関係会社株式	1,326百万円
合計	1,326百万円

関係会社株式の内容
次に掲げる関係会社の株式 ・ 株式会社三越保険サービス ・ 株式会社三越友の会 ・ 株式会社エム・ロジスティクス・ソリューションズ ・ 株式会社プロネット

関係会社株式の内容
次に掲げる関係会社の株式 ・ 株式会社伊勢丹アイカード ・ 株式会社イセタンクローバーサークル ・ 株式会社伊勢丹ビジネスサポート ・ 株式会社伊勢丹キャリアデザイン

III. 合併について

1. 物流子会社（株式会社エム・ロジスティクス・ソリューションズと株式会社伊勢丹ビジネスサポート）の合併

(1) 合併の効力発生日 平成21年4月1日（水）（予定）

(2) 合併方式

株式会社エム・ロジスティクス・ソリューションズを存続会社とする吸収合併方式で、株式会社伊勢丹ビジネスサポートは解散いたします。

(3) 合併に係る割当ての内容

当社の完全子会社同士の合併であるため、合併比率の取り決めはありません。

また、合併による新株発行及び資本金の増加もありません。

(4) 消滅会社の新株予約権及び新株予約権付社債に関する取扱い

株式会社伊勢丹ビジネスサポートは、新株予約権及び新株予約権付社債を発行しておりません。

2. 人材サービス子会社（株式会社伊勢丹キャリアデザインと株式会社プロネット）の合併

(1) 合併の日程

合併の効力発生日 平成21年4月1日（水）（予定）

(2) 合併方式

株式会社伊勢丹キャリアデザインを存続会社とする吸収合併方式で、株式会社プロネットは解散いたします。

(3) 合併に係る割当ての内容

当社の完全子会社同士の合併であるため、合併比率の取り決めはありません。

また、合併による新株発行及び資本金の増加もありません。

(4) 消滅会社の新株予約権及び新株予約権付社債に関する取扱い

株式会社プロネットは、新株予約権及び新株予約権付社債を発行しておりません。

平成 21 年 3 月期 第 3 四半期決算のポイント

1. 連結実績について

(単位：億円)

	第 1 四半期 会計期間	第 2 四半期 会計期間	第 3 四半期 会計期間	第 3 四半期 累計期間
売上高	3,539	3,514	3,962	11,016
営業利益	70	41	87	200
経常利益	124	67	118	310
四半期純利益	76	45	35	157

2. セグメント別の売上概況 (第 3 四半期累計期間)

セグメント名	概況
百貨店業	<ul style="list-style-type: none"> 国内百貨店は、平成20年9月の伊勢丹新宿本店婦人リモデル等の取組みを行いました。厳しい経済状況の下、各店舗で減収となりました。 海外百貨店は、中国が増収でしたが、新店開店費用等負担増により減収となりました。
クレジット・金融業	<ul style="list-style-type: none"> 伊勢丹アイカードが、平成20年11月に発行した「VISA付新アイカード」の取扱高が増加したものの、システム投資等の費用が発生したため増収減収となりました。
小売・専門店業	<ul style="list-style-type: none"> クイーンズ伊勢丹の世田谷砧店(平成20年3月開店)、東陽町店(平成20年4月開店)、大宮店(平成20年11月開店)のオープンにより増収となりましたが、新規開店による費用負担増により減収となりました。

3. 連結特別損益について(第 3 四半期累計期間)

①特別利益

- 固定資産売却益 10 億円、投資有価証券売却益 2 億円

②特別損失

- たな卸資産評価損 14 億円
 - …棚卸資産の評価について収益性の低下による簿価切下げによる原価法(いわゆる低価法)に変更したことによる、期首棚卸資産に係る損失。
- 固定資産処分損 3 億円 …三越銀座店増床リモデル工事に伴うもの。
- 投資有価証券評価損 63 億円
- 関係会社整理損 14 億円
 - …ドイツ三越及び上海錦江伊勢丹の清算決定に伴う損失見込額。
- 構造改革損失 23 億円
 - …三越鹿児島店、三越武蔵村山店、三越鎌倉、三越盛岡の営業終了に伴う費用他。

4. 連結業績予想について

(単位：億円)

	通期予想	前回予想	予想差
売上高	14,200	14,800	△ 600
営業利益	150	250	△ 100
経常利益	300	400	△ 100
当期純利益	110	270	△ 160

<業績予想のポイント>

- 営業状況の厳しさが当面続き、売上高は前回の予想を下回り、それに伴い営業利益、経常利益、当期純利益も予想を下回ると見込んでおります。
- 当期純利益の今回予想には、時価のある有価証券のうち、当第 3 四半期末に特別損失として計上した投資有価証券評価損の金額を織り込んでおります。